

## 第4回岡垣町総合計画審議会 会議録

日 時：令和2年9月28日（月）14：00～  
場 所：岡垣町役場 本館3階 大会議室  
出席者：委員12名（欠席委員2名）  
（事務局）：企画政策室3名  
（委託業者）：1名

※この会議録は主な要点を抜粋し、作成しています。また、委員名については非公開としています。

### 1 会長あいさつ

第6次総合計画の素案が示されており、「将来人口フレームの設定や基本目標別施策体系について」を重点的に審議する。

### 2 審議事項

『第6次総合計画素案について』

**資料1** 第3回総合計画審議会議事録について

**資料2** 第6次総合計画素案について

#### ○会長から資料1、事務局から資料2について説明

##### ■資料1 第3回審議会議事録について

質疑なし→承認のため、ホームページに公開

##### ■資料2 第6次総合計画素案について

###### **資料2のポイント**

- ・具体的な例を挙げ、施策体系について、実施計画と連動した総合計画になると説明
- ・国がめざす合計特殊出生率を採用し、2060年を見据えた将来人口フレームを設定
- ・更なる協働のまちづくりを推進するために、新たに町民・団体・企業と行政によるパートナーシップ目標を設定。また、パートナーシップ目標の2つの柱を説明。一つ目は各団体の横の連携強化や町外の人が参加しやすい機会を提供すること。二つ目は、子どもたちを中心にふるさとを記憶するシーンをつくり、町に関わりたいたいの意識を醸成すること。
- ・7つの将来像案を提案

## <質疑>

委員：基本目標3の3-1の子育てについてですが、安心して子育てのできるまちづくりは岡垣町にとって一番大きな課題であると思います。少子高齢化が進む中で、どうすれば子どもたちが岡垣町に好きになってくれるのかという問題もありますが、岡垣町は海が近く、通勤の便がよく、地価も安いので子育て世代の定住環境は良いまちであるが、子育て世帯の転入者はそう多くないのは、町の宣伝や情報発信が弱いのかと思います。そうした中で岡垣町に定住されている、小中学生の子ども達を持っている子育て世帯からみて、子ども達が本当に岡垣町で楽しんで学生生活を送れているのかどうか疑問に感じます。こども未来館や学校でいろいろな行事を立てているが、子どもたちを中心としたイベントが少ないと思います。子どもたちが楽しめるイベント行事をつくって、行政が支援して頂ければ、もっと子ども達が岡垣町を良いまちだと思い、将来、岡垣町に戻ってきたいという想いにつながっていくのではないのでしょうか。それらを含め、定住促進と子育て、子どもたちが楽しめる環境整備をここに含めてもらえれば良いと思います。

事務局：パートナーシップ目標には、子どもたちが岡垣町に住んで良かったという想いを醸成しようということが含まれており、まさに今のご意見と同じであり、各団体からも同様の意見があったところであるので、この目標をふまえ、施策を考えていきたいと思っています。

委員：そのような趣旨は書かれていますが、物事を進める上では、詳細を示す方が具現化しやすい。イメージ的な提案だとなかなか前に進むのが難しいと思います。

会長：総合計画はめざすものを掲げるものであって、具体的な部分は実施計画に入ってくる問題であろうかと思っています。

委員：P.6の協働のまちづくりの推進について、想いは伝わりますが、P.7の体系図と見比べた時に、「みんなでつくる協働のまちづくり」と2つの項目が将来像の横にあり、各目標の中にパートナーシップ目標が入っており、位置づけがわかりにくい。言葉があっちこちに入っている印象があります。

文面の中で「町民」という表現があるが、それでいいのか。第5次では「住民」となっています。「町民」という表現は岡垣町を外から見たような感じがします。

事務局：P.7の体系図については、内部協議の中で、協働のまちづくりは全てにわたっているべきであるとして急遽差し替えたものです。本来はP.6より前にテーマとして掲げた方が良いという内部の意見もあるので、もう少し強調するかたちにするなど検討します。「町民」の表現についても検討します。

委員：協働のまちづくりを考えるうえでは、体系図に基本目標の順番を変えた方がよいのではないか。今は「環境」が1番上にあるが、今後、協働のまちづくりを前提として考えるのであれば、協働のまちづくりの部分を前に持っていき、地域資源の部分は後に持っていくなど、工夫したほうがいいのではないか

事務局：基本目標は全て大事な項目であり、順番については、根拠等はないので、変更しても構わないため、検討していきたい。

会長：すべての基本目標の中にパートナーシップ目標として協働のまちづくりの目標を示しているの、順番はともかく、すべてにわたって協働のまちづくりを推進するという示されています。自然環境を1番にもってきたのは、アンケートで住民にとって自然環境が良く、守っていききたいという思いがあるので1番になっているのではないのでしょうか。

事務局：岡垣町では、これまでも住民アンケートで自然環境が町の重要なテーマとして意識されてきた結果を重んじて、これまでの総合計画でも、自然環境を守り、交流し生かすというテーマ1番に位置付けてきた経緯があります。素案でもその流れを踏襲しています。

委員：環境を守ることはわかっていますが、今後、人口も減っていく中で、定住など、これからの10年間の中で発展したい、頑張っていきたいテーマを重点とし、前にあげて、町の意気込みを示していければいいのではないかと思います。

会長：関連するところで、パートナーシップ目標にあるタイトルが「住み続けたい」では新しい住民が入ってきてほしいというメッセージにはなっていないと思います。「住み続けたい」は「住みたい」といえば、他のところからも住みたいという意味も含められるのでどうですか。

同じくタイトルにある「紡ぐ」は、子供たちはわかりにくい。「伝える、育てる、広げる」の方が良いのではないのでしょうか。

委員：先ほどの体系の構成に関して、まちは何が原点なのかを考えた時に、まず、48.6k㎡の土地と自然があり、次に人がくる。そして人が住み、住みやすいかたちを考えるとという枠組みの中で考えた時に、協働というのは、こうしたまちづくりが成熟したときに出てくるものなので、まず、岡垣町の土地と自然をどうするかという原点をもって考え、それをふまえて人が活動していく過程において協働という取組みを進めるという流れを考えると、この構成は最適であると思います。

基本施策をあげられているが、この総合計画を策定する過程において、総合計画は総花的にかかっているものなので、気持ちの良い文言がたくさん入っていますが、これを実現するためにどうするのかを考えた時に、それぞれの施策に関する個別法に基づく都市計画マスタープランや土地利用計画、高齢者福祉計画など様々な個別計画が推進されています。これらの個別計画との整合性を

どのようにして施策をあげてきたのか見えない。今、動いている中で掲げているものであげているのか。個別計画との整合をこの審議会の中で示してほしい。

事務局：この審議会と並行して町の策定委員会も進めており、各課の中でこの素案で示している基本施策について意見をもらうようにしています。まだ素案の段階なので、個別計画で掲げている施策等と整合が図れていない部分があるかもしれませんが、今後も各課と十分に連携し、審議会にも示していきたいと思います。

委員：個別計画があって、この基本施策が出てきているのではないのでしょうか。特に言えば、教育基本構想とか、今後より一層踏み込んでく内容になるのであれば、そことの擦り合わせが必要ではないのでしょうか。その前段階で審議しても審議にならないのではないかと思います。

委員：各課で、現法で掲げたものをふまえ意見を出していると思いますので、全然擦り合わせできていないわけではないと思います。それぞれの基本施策の内容が個別計画に関連しているかを示したらいいと思います。

事務局：表現の足りない部分などについて、各課にも確認を行い、審議会に出た意見もあわせながら、作っていかうと考えています。

会長：また、整理した段階で資料を示していくと思いますのでよろしくお願ひしたい。

委員：基本目標4（ともに安全・安心を支えるまち）に空家対策が入っていないので入れたほうがよろしいのではないのでしょうか。空き家から防火や犯罪の問題が発生することがあると思いますので。

事務局：空家対策については、基本目標2（地域資源を生かし発展するまち）の住環境の部分で定住促進として記載しています。危険家屋や空家の防犯・防災面での課題をふまえた空家対策についても重要と考えますので、整理していきたい。

委員：P.7の施策体系図の下に「計画の推進」というものがあるが、これは矢印で示されているが、これは計画を推進していくための基盤と考えた場合、ヒト・モノ・カネが必要であり、書かれている1番目は人、2番目は財政であるとした場合、3番目にモノとして施設整備や交通のようなものが入ってくるべきではないのでしょうか。

計画の推進の具体的な施策をみていくと、上の基本施策と重なっているところがあります。例えば「まちの魅力の発信と定住促進」は上にも書いてあるので重なっている部分は言葉を変えるなりした方が良くと思います。

事務局：計画の推進は、先ほどの協働のまちづくりと同じで、すべての分野に関わる部分で示しています。まちの魅力発信は、対外的な部分での広報を示しています。

これまでの計画を踏襲している部分ではありますが、計画の推進では、住民による地域自治と行政運営の2つの分野で示しています。

- 会 長：計画をどう推進していくかという体制が入ってこなければおかしいのではないのでしょうか。
- 事務局： 実施計画にも関連する話になりますが、総合計画では計画全体にわたっての計画を推進するための指針を示していきたいということでお示ししています。
- 委 員：基本目標別施策なので「計画の推進」は別にあって、推進体制を示すべきではないか。
- 会 長：意見をふまえ事務局で検討して頂きたい。
- 委 員：パートナーシップ目標は、各関係団体のヒアリングで出された意見がここに載っているのか。
- 事務局： それだけではないが、ヒアリングを通じて特に大事な視点として共通する内容をここで示しています。
- 委 員： 子育ても子どもたちの個の教育の時代に入っているので、教育委員会でも主体的な学びを大事にするといわれている中で、パートナーシップ目標は一方通行なイメージがして、主体がだれなのか見えてこない。先ほども話していたとおり、これからは子ども主体とか、保護者主体とかをきちっと入れていかないといけないのではないのでしょうか。関係団体の意見以外にもアンケート等の保護者や子どもの意見を取り入れて、住民が主体的に関われるような双方向の目標になっていない気がしたので、これから考えていくべきではないか。
- 事務局： 主体を示すとより具体的な内容にもなってくるかと思いますが、双方向で共感できるスローガンとなれるよう精査していきたい。
- 委 員： 指針では「みんなでつくる」という目標があるが、子育て世代の現状をみれば地域活動をしているメンバーも固定化しており、保護者も大変なので子ども会に入らず会員が少なくなっています。そうした中で、みんなで作っていかなくてはいけないということがみんなに伝わるような政策が必要であると思います。まちがどうなっていくか、危機感を感じている若い世代があまりいない印象を受けます。危機感が伝わると自分たちもできることをやっというのかもしれません。
- 会 長：まさにそのために協働のまちづくりを全面に押し出していこうということだと思いますが、それでも伝わらないということでしょうか。
- 委 員：それぞれ基本目標に対してパートナーシップ目標が掲げられていますが、これは今までの取組みとあまり変わらない内容かと思いました。もっと斬新なものがないとみんなで作ろうというものにつながっていかない気がします。
- 委 員：今の意見と関連しますが、10年間の計画なので、5次と6次でほぼ同じような中身になるのかと思います。そこで、この10年間で特に力を入れていきたいものがあるような表示をしないと、みんながこの10年間何をするのかと思うのではないのでしょうか。6次はここが違うというものの表示があるのでは。

- 委員：協働のまちづくりはだれがするのかと思います。住民一人ひとりで動かすという考えであれば、住民の方が何をするのが分からず、このまま住民に伝えても素通りしてしまうと思います。もっと住民一人ひとりに、危機感とともに町を盛り上げようという気持ちを植え付けるような施策がほしいなどと思います。
- 委員：協働は何なのかという受け止め方、考え方がそれぞれで違い、共有されていないと思います。
- 協働というのが何なのかを理解させる言葉を用意しなければ、勝手にやれば良いというようになってしまうのではと危惧しています。
- 会長：P.6の協働のまちづくりの必要性について記載していますが、住民が同じ方向に進めるように分かりやすく、示して行ってほしい。
- 委員：関連した意見になりますが、住民の自主的なまちづくりが必要であり、一人ひとり投げかけても何をしたら良いかわからない。住民のやろうとしていることを言える、吸い上げられる場があれば、もっと自主的な活動が促進され、協働のまちづくりの意識が芽生えるのだと思います。そういったことを住民によるまちづくりの指標として示せばよいのかと。
- まちづくりは新しいだけでなく、今あるものをつくりかえるなど、活かしていくことも大事だと思います。
- 事務局：団体ヒアリングでも他の団体との意見交換がしたいとの意見も多く出ていますので、そうした共有の場づくりを図っていくことも必要だと思っています。
- 委員：将来像については今日の意見を出して、決めていくことでよろしいか。
- 会長：この案と違う案があれば意見を頂きたいが、今回、まとめることは難しいです。
- 事務局：意見シートの中でも意見を集めたいと思っていますので、その意見をふまえ、絞り込んでいきたいと思っています。
- 委員：キャッチフレーズは、大人が考えるより、子どもが考えた方がよいのではないのでしょうか。小学生に募集し、考えてもらってもよいのでは。子どもたちが考えれば親御さんも考えると思います。将来像を考えることで岡垣の良さを改めて考える機会にも繋がります。
- 委員：それをするのであれば、町の将来像の考え方にある「豊かな自然」「町民のふれあい」を強調してわかってもらった上で考えてもらわないと唐突なキャッチフレーズがでできます。
- 委員：みんなで作る協働のまちづくりであれば、みんなで考えてキャッチフレーズをだしたら良いと思います。
- 事務局：今の将来像の考え方（おかがきらしいしあわせ）は今までのアンケートや中学生アンケート等から示しており、ここを小学生に理解してもらうのは難しいのかと思います。もう少し将来像の候補を絞り、職員の家族で話し合ってもらうなどを検討したいと思っています。

委員：この体系図と全くかけ離れた将来像になっても困ると思います。この体系図をふまえた将来像でないと体系図もつくりかえることになると思いますので。

会長：必ずしもそうなるのかは分かりませんが、将来像なので、子どもたちが10年後こうなってほしいという想いを出すことで体系図は変わることはないと思いますが。

委員：現在、計画策定の工程に予定されていない事項だと思いますので検討しづらいことだと思います。全小学生にきくのではなくても良いので、何か良い方法があれば取り入れていければ良いと思います。

委員：岡垣町の今の財政状況がどの程度であるか。自主財源が40%、依存財源が60%のまちで、相対的に取組みを進める時に、相当な覚悟をもって自主財源を確保していかなければ、計画は推進できないと思います。言われていた「ヒト・モノ・カネ」をどのように組み立てていくかをもう少し踏み込んで表現していくことが大事ではないかと考えます。岡垣町の類似団体は自主財源が50%ですが、岡垣町は40%です。それ相当の覚悟をもって取り組む姿勢を示していただきたい。

会長：パートナーシップ目標の中に「防災」に関する文言が入っていません。住民アンケートでも関心の高い項目であるので、検討をお願いしたい。

#### ○素案に対する意見シートについて

- ・意見シートの〆切は10月6日（火）まで
- ・基本施策等に関する意見や将来像などについて多くの意見を頂戴したい。

以上